

日本語指導の習得状況に応じた指導者向け教材（DVD）② 令和2年度作成

チャプター 1

・「特別の教育課程」による日本語指導について

チャプター 2

タイトル	「日本語基礎」の指導 ～基本文型の指導～
教材との関連	にほんごワークブック2 ぶんのべんきょう 「6 ひるやすみ」
事前指導	<ul style="list-style-type: none"> ■「だれ」「なに」などの疑問詞の意味が分かる。 ■基本動詞（「たべる」「のむ」「よむ」など）とそれらの現在形・過去形の言い方が分かる。
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ■日本語の語順や「～します」「～しました」を使って自分の動作を伝えることができることに気付き、自分や友達の話を話したり、書いたりすることができる。
指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ◆学習内容をイメージさせるための導入 <ul style="list-style-type: none"> ☆児童生徒とやり取りをして、本時の学習のイメージを膨らませましょう。 ☆既習の表現に間違いがあるときは、必要に応じて修正しましょう。ただし、やり取りの場面では、話の流れを止めないように気を付けましょう。 ◆語彙の指導 <ul style="list-style-type: none"> ☆絵を示し、その名前を確認しています。「絵と音声の一致」につながります。 ☆「おにごっこ」は日本の遊びです。語彙の指導では、日本の文化や習慣を教えることも大切です。 ☆絵と文字を合わせる活動をしています。「音声と文字の一致」につながります。 ☆絵と「ボール」という知っている言葉から、「バスケットボール」や「バレーボール」を想起させています。知っている言葉につなげて語彙を増やすことも大切です。 ◆語順の指導 <ul style="list-style-type: none"> ☆絵を貼ったり、助詞を色分けしたりすることで、日本語の語順に気付かせています。 ◆読む活動 <ul style="list-style-type: none"> ☆初期の日本語指導では、文章はできるだけ身近な場面が書かれているものを使いましょう。 ☆主語や述語に印を付けることで、何を聞かれているかを理解し、本文から必要な情報を見つけられるように工夫しています。 ☆挙手をして発言したり、指名して発言したりする場面を取り入れています。学び方を教え、在籍学級での学習にスムーズにつながるようにします。 ◆文を書く活動 <ul style="list-style-type: none"> ☆文法的なルールの説明は避けましょう。主語と述語に着目させたり、いくつかの文を示したりしながら、気付きを生み出すことが大切です。 ☆発達の段階によっては、母語との違いに気付かせることも日本語の理解につながります。 ◆文を読む活動 <ul style="list-style-type: none"> ☆仲間で学習している時は、書いたものを互いに読み合うと、理解が深まります。 ◆自分のことを表現する活動 <ul style="list-style-type: none"> ☆自分のことや自分の気持ちを表現させ、言葉の定着を図ります。

チャプター 3

タイトル	「技能別日本語」の指導 ～「読む」～
教材との関連	こくごワークシート「ごんぎつね」
事前指導	<ul style="list-style-type: none"> ■基本文型（主語・述語）が分かる。 ■助詞（「は」「が」「に」「を」「の」など）の使い方が分かる。
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ■ごんが自分のいたずらを後悔している気持ちを読み取り、「～をしなければよかった。」を使って、後悔の気持ちを表現することができる。
指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ◆場面をイメージさせる指導 <ul style="list-style-type: none"> ☆登場人物が複数ときは、絵を使って捉えやすくします。 ☆読む前に、絵や写真を使って場面をイメージすることで、内容を理解しやすくなります。 ☆物語の読み取りでは、時を表す言葉に着目させると、あらすじを捉えやすくなります。 ◆教科書の音読 <ul style="list-style-type: none"> ☆範読→群読を行うことで、正しい発音を繰り返すことができます。 ☆児童の日本語能力に合わせて、漢字にルビを振りましょう。 ☆指で文字をなぞりながら読むと、音声と文字の一致につながります。 ☆鉛筆で意味の分かる言葉で区切りながら聞くことで、言葉を捉えやすくなります。 ◆教科書の物語文を読み取る活動 <ul style="list-style-type: none"> ☆「ごん」には黄色い印、「兵十」には青い印をつけることで、登場人物の様子を読み取りやすくしています。 ☆必要な情報を得るために、主語と述語に着目させています。 ☆さつまいもを知らない児童のために、実物を見せています。 ☆「視覚化したもの」と「文字」を合わせて指導すると、語彙の理解を深めることができます。 ☆「しおれる」という言葉は、理解しにくいので、しおれた花の写真から「しおれた顔」を連想させています。 ☆分からない言葉を類推しながら読むことにより、読む力を高めます。

	<p>☆「床につく」という言葉は難しいので、「寝ている」という「やさしい日本語」に言い換えて説明しています。</p> <p>☆「やさしい日本語」を使用することは、理解の支援になります。</p> <p>☆絵や写真等で視覚化することができないときは、母語で言い換えることも効果的です。</p> <p>☆「挙手をして発言をする」「立って話す」「反応する」等、学び方を教え、在籍学級での授業で活かせるようにします。</p> <p>◆<u>自分のことや気持ちを表現する活動</u></p> <p>☆読み取った気持ちと「しなければよかった。」という言葉を使って、自分のことを表現します。</p> <p>☆教師がモデルを示すことで、日常のどんな場面で、どんなことが言えそうかをイメージさせています。</p> <p>☆学んだ言葉は、実際に使うことで定着していきます。</p>
--	---

CHAPTER 4

タイトル	「日本語と教科の統合学習」の指導
学年、教科名、単元名	中学校1年生 理科 身の回りの物質 金属と非金属（2/27）
事前指導	<p>■「金属」「プラスチック」「ガラス」など身の回りの物質名を覚える。</p> <p>■教科の学びに必要な「性質」という言葉をやさしい日本語で理解する。</p>
本時の目標	<p>■教科の目標</p> <p>身の回りの物質を観察や、電気を通したり磁石につけたりする実験を通して、金属には電気を通すという共通の性質があることが分かる。</p> <p>■日本語の目標</p> <p>「電気を通す」「磁石につく」という言葉を知り、観察や実験を通して分かった金属や非金属の性質を説明することができる。</p>
授業づくりのポイント	<p>☆授業は、学習内容に基づいて「教科の目標」を設定します。</p> <p>☆児童生徒が「教科の目標」を達成するために、どのような日本語の言葉や表現の理解が必要かを考え、「日本語の目標」を設定します。指導する言葉や表現を明確にして、児童生徒がそれらを使って説明できるようにしましょう。</p>
ターゲットセンテンス	<p>（ ）と（ ）と（ ）は電気を通しました。 だから、金属は（ ）と思います。</p> <p>☆「教科の目標」から、本時のターゲットセンテンスを決め出しましょう。</p> <p>☆「ターゲットセンテンス」とは、日本語の力や教科に関する学力が十分でない児童生徒でも、「本時の最も重要な学習内容」が分かるようにするために、「思考の手がかりとなる表現」であり、教師の発問や児童生徒の発話に繰り返し使用します。</p>
指導のポイント	<p>◆<u>前時の復習</u></p> <p>☆生徒とやり取りをしながら、前時に学んだ内容と言葉を思い出させています。</p> <p>☆生徒にとって難しい言葉は、発音練習をし、確実に言えるようにしましょう。</p> <p>☆文字だけでは物をイメージできない生徒のために、写真を提示し、理解を促しています。</p> <p>☆写真に文字を入れることで、語彙の定着を図っています。</p> <p>◆<u>課題の提示</u></p> <p>☆分からない言葉を調べることができるように、辞書を用意しましょう。分からない言葉を母語に言い換えることも効果的です。</p> <p>☆「折り紙」が何か分からない生徒のために、実物を提示しています。日本独自の文化の理解を図るためには、実物や写真の提示が必要です。</p> <p>☆課題の理解は、本時の授業を進めていく上で重要です。音読して文字を音声化させ、確実に理解させています。</p> <p>☆一人一人に読ませて、個の理解度を高めます。</p> <p>◆<u>仮説の設定</u></p> <p>◆<u>実験方法の説明</u></p> <p>☆実物を使って、「やさしい日本語」で実験方法を説明しています。</p> <p>☆ターゲットセンテンスに関わる「電気を通す」「電気を通さない」という言葉を、実験の手順と共に繰り返しインプットしています。</p> <p>◆<u>実験</u></p> <p>☆実験中も「電気を通す」「電気を通さない」という言葉を使うように指導しています。</p> <p>◆<u>実験結果のまとめ</u></p> <p>☆表の言葉は、文字のみにしています。読めないときは、導入時に使用したカードを手がかりにするよう促します。</p> <p>☆授業中は、原則日本語で話すように指導しています。</p> <p>☆表は「金属」と「非金属」を色分けすることで、違いが分かるようにしています。</p> <p>☆ターゲットセンテンスを使って説明できるように、必要な言葉を繰り返し練習します。</p> <p>◆<u>考察とまとめ</u></p> <p>☆考えたことを文で表現するのが難しい場合は、選択肢から選んで文を作ることができるようにします。</p> <p>☆仲間と交流する場を設け、全員が「ターゲットセンテンス」を使って説明できるようにしています。</p>